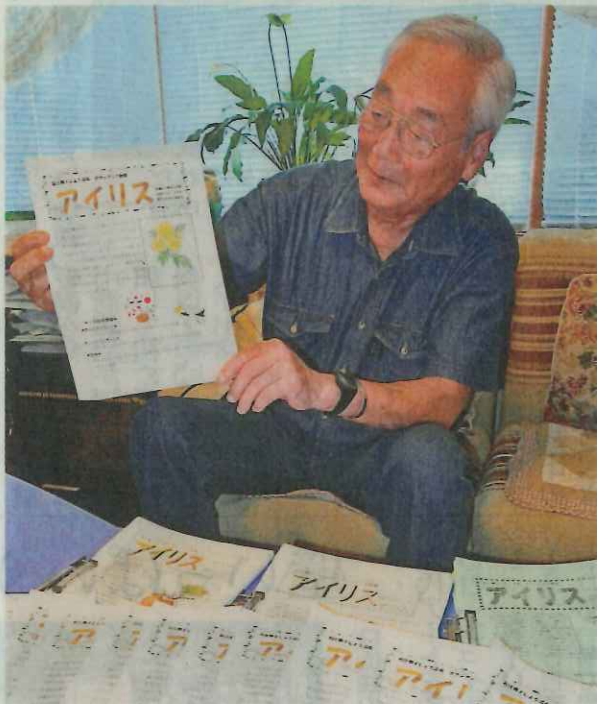


触れ合い伝え新聞200号

大津の82歳男性、16年半 毎月手作り



これまで発行した新聞「アイリス」と、記念の200号を手にする木村さん(大津市南比良)

大津市の福祉施設でボランティアとして活動する男性が手作りで発行している月刊新聞「アイリス」が10月で創刊200号を迎えた。第1号から16年半。一度も欠かすことなく作り続けた紙面には、施設を訪れるボランティアの活動や利用者との触れ合いが記録されている。

福祉施設のボランティア活動記録

「皆のやりがい」

大津市南比良の木村ア活動を始めた。進治さん(82)は、定同苑では、他にも多年退職後の1995年の、同市南小松の特別養護老人ホーム「近江舞子しょうぶ苑」で、絵画教室やハーモニカ演奏などのボランティアある」と97年3月、施設名にちなんだショウアの英名「アイリス」と名付けた新聞第1号を発刊した。

100号からはカラー紙面になった。1面に山菜や魚など自作の水彩画や季節感あふれるコラムを掲載。見開き面では、施設での毎月の出来事や利用者との交流、各種ボランティア活動を写真と記事で伝え、施設職員の紹介コーナーも設けた。職員の協力も得ながら、毎月約100部を施設で配布している。

「アイリス」はA3判二つ折りの計4面。途切れることなく発行し、2005年6月の「アイリス」はA3判二つ折りの計4面。途切れることなく発行し、2005年6月の

(山本旭洋)



触れ合い伝え新聞200号

大津の82歳男性、16年半 毎月手作り



これまで発行した新聞「アイリス」と、記念の200号を手にする木村さん(大津市南比良)

大津市の福祉施設でボランティアとして活動する男性が手作りして発行している月刊新聞「アイリス」が10月で創刊200号を迎えた。第1号から16年半。一度も欠かすことなく作り続けた紙面には、施設に訪れるボランティアの活動や利用者との触れ合いが記録されている。

福祉施設のボランティア活動記録

「皆のやりがい」

大津市南比良の木村ア活動 시작했다。進治さん(82)は、定同苑では、他にも多年退職後の1995年の、同市南小松の特別本舞踊やカラオケ、紙芝居など多彩な催しを養護老人ホーム「近江舞子しょうぶ苑」で、絵画教室やハーモニカ演奏などのボランティアある」と97年3月、施

ア活動 시작했다。アの英名「アイリス」と名付けた新聞第1号を発刊した。

「アイリス」はA3判二つ折りの計4面。途切れることなく発行し、2005年6月の

100号からはカラー紙面になった。1面に山菜や魚など自作の水彩画や季節感あふれるコラムを掲載。見開き面では、施設での毎月の出来事や利用者との交流、各種ボランティア活動を写真と記事で伝え、施設職員の紹介コーナーも設けた。職員の協力も得ながら、毎月約100部を施設で配布している。

木村さんは「ボランティアは一緒に楽しむことが大事。新聞発行は生きがいで、可能な限り取材し続ける」と力を込める。村田憲治苑長は「他のボランティアのやりがいにもつながっている。今後の新聞も楽しみ」と話す。(山本旭洋)

